

# **宮城野区 新田地区民生委員児童委員協議会**

(平成 26 年 2 月 17 日掲載)

## **1. 新田地区の概要**

当地区は、仙台駅の東側約 5 km に位置し、J R 東北本線と梅田川に挟まれ、南に国道 45 号、東に国道 4 号仙台バイパス、北に県道 8 号利府バイパスがあります。

街路が整然と区画された古宿である新田西町・新田北町、生活圏の広がりによって市街化した新田・小鶴南部・西田・館町一丁目・館町二丁目・高瀬町の 9 地区と、仙塩広域都市計画事業仙台市新田東土地区画整理事業の完成に伴い、新たに市街化が進んだ新田東地区からなります。

現在、当地区は、民生委員・児童委員 23 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しており、受持世帯は約 8,000 世帯です。

## **2. 震災発生当時の様子**

震災の発生は、新田コミュニティセンターで 3 月の定例会終了後の片付けをしている最中でした。

携帯電話の緊急地震速報とほとんど同時に揺れが始まり、収納庫の扉が開き、立っているのもやっとという状態で、一度揺れが小さくなったと思ったらまた大きく揺れ出し、今度は、電気が非常灯に切り替わりました。私たちはじっと揺れが収まるのを待っていました。実際には 3 分半程度であったのですが、感覚的には、5 分以上揺れていたように思いました。

その後は、携帯電話のワンセグ TV で情報を確認しながら、まずは自宅の確認をし、その後担当区域の安否確認を行ないました。

## **3. 震災発生後の状況**

震災による家屋の倒壊、道路の液状化、ライフライン（水道・電気・ガス）の断絶等のため、住民は避難所へ避難することとなりましたが、当地区の指定避難所は新田小学校で、体育館及び教室も開放し避難者を受け入れました。

また、小学校には収容しきれないため、各町内の公民館や新田コミュニティセンターも開放して対応しました。

## **4. 震災後の民児協の活動状況**

震災後の民児協の活動は、受持担当区域内での安否確認および支援物資等の情報の提供や配布協力、ボランティアセンターの案内、各委員間の情報の共有等でした。

また、ライフライン等が復旧し、徐々に落ち着いてきてからは、新田地区社会福祉協議会と共同で作成した「健康・福祉情報マップ」（\*1）の改訂に取り組み、震災時に重要だった水の確保を考え、住民の許可を得て、井戸の位置の記入を行いました。また、地域の一人暮らし世帯・要援護者世帯に「安心カードキット（丸筒）」（\*2）の配布を行ないました。

当地区には仮設住宅の建設はなく、被災者及び避難者は借上賃貸住宅に入居しているので、関係機関と協力して情報収集及び訪問等を行ないました。

#### \*1「健康・福祉情報マップ」

住民の情報共有のツールとして、新田地区社協が企画、立案し、地区民児協が協力（独自に情報収集）して、地区社協（民児協）地域内の医療機関、福祉施設、学校等の社会資源を記載した地図。

#### \*2「安心カードキット（丸筒）」

日本赤十字社で作成した、筒状の「安心キット」に要援護者（一人暮らし高齢者等）の緊急連絡先、医療情報等を記載した「あんしんカード」を入れ、地域の支援者と取り決めをした場所に設置しておくもの。

### 5. 現在の民児協の活動状況

現在の民児協の活動状況を、大きく分けると以下のとおりとなっています。

- ・担当区域内の見守り、見廻り活動（安否確認）
- ・要援護者支援活動（各町内会との連携）
- ・サロン活動（平成24年度実績 6町内会 全12回 延べ参加人数312名）
- ・学校登下校時の見守り活動
- ・委員間及び関係機関との情報の共有（定例会・研修会等で）
- ・地域子育て支援事業への協力  
（保育所新田こぼと園でのあそぼう会等による子育て世代の交流のサポートなど）
- ・新田劇団の立ち上げ及び活動  
（寸劇を通しての介護等に関する各関係機関との連携について理解を深めてもらうことを目的とし震災後に設立。現在までに3回の公演実施）

民児協としての活動状況は、新田劇団以外は震災前とほとんど変わりませんが、震災後は活動回数の増加及び活動内容の充実に努めています。また、関係機関との連携の強化推進を行なっています。

### 6. これからの民児協の取り組み

沿岸部の被害に比べれば比較的被害は少ない状況ですが、現在も道路の改修、家屋の修繕等が行なわれており、復興へ向けた途中の段階です。また、今後地区内に建設される公営災害復興住宅もあり、環境は変化していくと思われます。

これからも民児協活動の充実に努めるとともに、民生委員・児童委員として自分たちができることを気張らず、無理をせず精一杯取り組み、地区社協、連合町内会、行政、地域包括支援センター等関係機関と連携して活動していきたいと思ひます。

### 7. 終わりに

今回の震災で、家族のつながり・近所のつながり・地域のつながりの大切さを再確認し、日頃の活動の積み重ねが大事であることをより一層思うようになりました。継続は力なり、というように、今後も小さなことであってもコツコツと積み重ね、活動していきたいと思ひます。

最後になりましたが、全国の皆様からの手厚い支援やお見舞いをいただき、本当にありがとうございました。